


題材名 教材教具名	感情理解が難しい子のための学習教材
教科・領域	国語・自立活動
考案者・製作者	伊部 知津子
必要な物(写真 があるとよい)	
保管場所	小学部2組教室
内容・使い方	<p><人の表情や感情理解が難しい児童のための教材></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の顔への注目と興味関心をもつ手がかり 顔の表情が描いてある絵本を読んで、顔のまねっこ遊びを教師と一緒にする。 ・感情を表す5つの顔カードによる感情とことばの意味理解 「(うれしい)(かなしい)(おこっている)(こわがっている)(おどろいている)のカードはどれですか？」の教師の問いかけを聞いて、5つのカードから選択する。 ・場面における顔カードの選択とマッチング 最初は、教師が場面カードを見て、相手の気持ちまたは自分の気持ちを想像させて、それに合った顔カードを提示して説明する。繰り返し行うことで、意味が理解できるようになったら、今度は5つの感情顔カードから、児童が自分で選択するようにする。 ・プリント教材による定着と応用化 場面カードと顔カードのマッチングができるようになったら、いろいろな顔や場面を更に増やしていき、プリント教材にて応用化していく。
備考 (教材・教具 の工夫点や 配慮点)	<p>・自閉症スペクトラムの児童生徒は、人に対して興味関心があまりなく、感情の理解や自分の感情をことばで表現することが難しい。よって、自分のイライラ感や不安があると、ことばではなく大声を出したり泣き叫んでパニックになったり、また手足を出して攻撃的な行動をとってしまったりすることが多い。苦手なことは非常に不安がって学習すること自体拒否することも多いので、不安を感じさせないように、楽しくやりとりしながら、興味関心のある絵本から始めていった。気持ちを理解するための文献や教材を活用しながら、担当児童が不安感や拒否感をもたずに取り組めるように、スモールステップのやり方で実施していくことを心がけていく。</p>